

ついで野イルミネーション



北かばら

発行責任者
井上文夫

今年最大の出来事は、参議院選挙で自公が敗退し、分裂した。初の女性首相が誕生し、「日米同盟のさらなる強化」をうたい右傾化に走り出したことだ。日本共産党の反体制の活動強化が重要になってきた。

後援会「しらかば北」の一年を振り返ると、

①2月、昨年の要求事項であったついで野2丁目の側溝の修理がやっと完了した。

②4月「あなたの声を届けます」アンケートで多くの要求が寄せられ、その実現に向けてスタートした。

③7月参議院選挙では白石ら候補の応援に総力をあげて取り組んだ。

④11月中島さやかさんの「秋のコンサート」を昨年に続き開催し盛会だった。編集部

「戦争が廊下の奥に立つてゐた」 井上文夫

今年、めでたく80代の後半に入りました。足腰が少し弱くなりましたが、幸いにも元気で過ごしております。周りに90代になっても平和と民主主義のために頑張っている人がいますので、後に続きたいと思っております。俳人・渡辺白泉が戦前に読んだ俳句「戦争が廊下の奥に立つてゐた」が現実味を帯びてきました。

一年を振り返って

父がフィリピンで戦死し、戦後ひもじい思いをしてきた経験から「絶対に戦争してはいけない」と強く思います。戦争準備にまつしぐらの自衛政権には一日も早く退陣してもらいたいです。

「平和に話し合って楽しく自由に生きる」難しさ

渡辺初子

年を重ねるたびに、気持ちに行動力が追いつかず、焦りを感じながらも、あと何年、今だから楽しみたい、と個人的な思いを強くした年のように思います。

また社会に目を向ければ、世界のおちこちで、ドンパチ、罪のない人たちの命が奪われ、子供たちの泣きわめく声をリアルタイムでテレビを通して見ます。

日本も戦後80年、落ちついていくかのように見えて、なぜか平和に話し合って、楽しく、自由に生きることに真っ向から反する人たちの出現が多く見受けられ、生きることの難しさを強く感じた一年でもありました。今、四人のひ孫が大人になって社会参加する頃は、いったいどんな日本になっているのか不安な気持ちも持った一年でした。

「衰え」進行中

竹内壮一

世の中のことばをきいて、己が身についていけば「衰え」が随所に現れた1年であった。本を買わなくなった。本屋に行かなくなった。新聞の書欄をすつ飛ばした。明らかに「衰え」が進行中である。

歩く時間と距離がずいぶん減った。バスに頼ることが増えた。バイク（電動アシスト付スポーツ車）で走ることを止めた。腰と太ももあたりの鈍痛がしばしば起こった。明らかに「衰え」が進行中である。

「さておいた」世の中のことばに關しては、参院選で参政党や日本保守党が伸びたことが、頭にきたというか、腹が立つというか、許せないというか、わけがわからんというか、困ったことになったというか……

落第

中村敏彦

関口元市議の一年生の中頃から25年間駅頭・街頭宣伝で、マイクを握った。今年、マイクを置いた。時々の話題を平易に、聞きやすく常に原稿を準備した。

しかし地元の人達とよく話し、聞いて、切実できびしい暮らし、身近で生の要求を自分の言葉として訴えるのでないと、つまらん説教でしかない。長々としゃべっている己に気がつき「落第」した。

言葉は時代を映す。私のは「昭和」の言葉、話し方も今の人達の短いセリフより、やたらと長い。周りを見れば「80代」ばかり。若者に感性が伝わらない、見れば分かるか……

3月から44冊の本を読んだ。新聞は「東京」「日経」「赤旗」「前衛」に「経済」をときどき、活字つぼくなり、生身の人間くさが薄れていく。1月で87歳だ。落第、やむなしか。

我が家野菜作り

澁谷廣和

我が家には菜園はない。庭の植木のまわりに一列にナス、シントウ、万願寺、ミニトマト、枯れてしまったぶどうの棚を利用してゴーヤなど実のなるものを作っているに過ぎない。葉物は虫の食い残しをいたたくことになるので止めた。肥料は庭の落ち葉と台所から出た野菜くず、殺虫剤は使わない。

4月ごろ苗を植え、毎夕水やりを忘れないようにすると7月頃から収穫できる。添え木をさし、追肥と草取りなど手間もかかるが、毎日庭に出て成長の度合いを観察するのも楽しい。

家計には少しは役立っているかも知れない。収穫期には自分たちでは食べきれず近所に助けてもらっている。冬になってすべての野菜をかうことになったがその値段の高くなっていることに驚いている。

花火

我孫子市の小中学校の児童生徒が、日ごろ感じる市政について質問・意見を「子ども議会」が11月6日開催された。（広報あびこに掲載）市教育委員会が2001年から2、3年ごとに開いて、今回で11回目。小中学校19校から選ばれた議員37人が、市議会会場の議員席に、市側は星野市長、教育長ほか各関係職員が参加した。質問は、体育館のエアコン・手賀沼の浄化・防犯活動など多くの問題があったなかの一つは「ジェンダーギャップ指数」が日本は著しく低い。ジェンダー平等の実現をとの発言があった▼「このジェンダーギャップ指数は、各国男女間の不平等を数値化したもので、経済・教育・健康・政治の4つの分野で評価される。149か国中、日本は118位67諸国の最下位。特に経済・政治分野で格差が大きいとされる。（2025年度世界経済フォーラム発表）」▼政治

の分野で女性の進出状況を見ると、日本共産党は田村智子委員長をはじめ、全国の県会議員において女性は57・3%市議会議員で50・5%といずれも半数以上を占めている。快である。（江）

（裏面に続く）

《表面より続く》

「怒ること」もボケ防止

江角省一

高齢の域に入って、食と睡眠を楽しむ日々であるが、物忘れと探し物の時間が多くなりボケたかなと改めて思う。ボケ防止は「興味を持つこと」「感動すること」「笑うこと」と言われるが、そのどれも少なく小さくなったようだ。感動することの裏返しには「怒ること」があるのではないか。

怒ることは、脳神経を刺激し脳の活性化になるといふ。怒ることは感動することと同じようにボケ防止になるといふことだ。最近ますます進む沖縄諸島の軍事化、拡大する軍事予算などの報道を聞いては怒ることが多くなった。

高市政権が進めようとする産果の諸々、怒りを覚えずにいられようか。大いに怒り怒ればボケ防止に役立つことになるかと確信する。

中島清香さん

秋に歌う



日本と世界の名曲を
歌とピアノで綴って

清香さんの声に魅了

昨年に続いて秋のコンサートを聴きました。改めて中島清香さんの声に魅了されました。

胸に深く響き、会場いっぱい広がる歌声に引き込まれました。歌曲、オペラ、ミュージカル等色々なジャンルを演奏し心がで、「メモリー」を一筋に口ずさみました(勿論小声で)。最後の「みんなであつたおと」は、サロンコンサートのようでおもしろい試みでした。(真)

又しぶりに聴く

中島さんの歌

私は音楽番組をよく見るのだが20日のNHK・Eテレの「クラシックTV」では、武蔵野集だった。(コンサートの)第一部の曲目は武蔵の「鳥へ」だった。5曲目の「カラタチの花」は聴きな

日本国民救援会我孫子支部 第34回大会

11月20日、湖北台市民センターで日本国民救援会我孫子支部の第34回大会が開かれました。支部大会の前に袴田事件のビデオNHK複製「死刑囚から無罪へ」が上映されました。無実の罪で47年7カ月、死刑囚として拘留された袴田巖さんと無罪を訴えて闘い続けた姉・芳子さんの想いを強く受け止めました。支部大会の報告では、乳癌外科医師えん罪事件の無罪判決確定、間違つて有罪となつた裁判をやり直す「再審法」改正への取り組みなどの活動が報告され、新しい支部役員には渡辺誠二さんらが選出されました。

市民の会

第8回総会

「我孫子の誇れる給食を続け、無償化を求める」
11月22日(土)に湖北台市民センターで20数名の参加で総会が開催されました。昨年度の活動として、給食費の値上げを保護者負担としないように求める要望書を市に提出したり、学習会を開いたりした報告がありました。要望書に対する市の回答は、令和7年度以降の国の物価高騰対策交付金が見通しが立たない中、給食の質を維持するために学校給食費の改定を行うたという内容でした。市は今後も、第3子以降の給食費の無償化と第一子・二子に対する月額1000円の減額は継続して実施する予定です。会の今年度の活動方針として、我孫子の給食の良さを維持発展と給食費完全無償化に向けて活動を進めていくことが提案され、全員の賛成で可決されました。総会に先立ち、いすみ市の「学校給食全量有機米」を達成した取り組みの講演がありました。安心・安全の学校給食を子どもたちに提供するためにも食についての学習を続ける必要があると感じました。(新)

富山 稔



世界のワイルドフラワー

9



ヴィオラ・サクルス (Viola sacculus)

12月 アルゼンチン南部 サン・カルロス・デ・バリローチェのカテドラル山で撮影

世界にはどこにもスミレがある。日本にも多いスミレだが、草のスミレは普通だが、木のスミレもある。南米のアンデス山脈は特に変わったスミレがある。主にチリとアルゼンチンのアンデス山脈の険しい谷深くに花咲く。厳しい環境の中で、上に伸びるよりも地に伏せたような、ちようど松ぼっくりのような形で成長し、葉の間から花を咲かす。近年この仲間の研究が進み、種類も増えている。